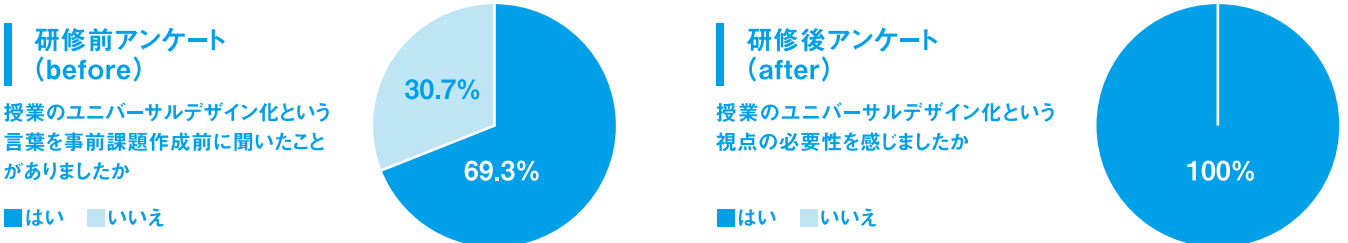


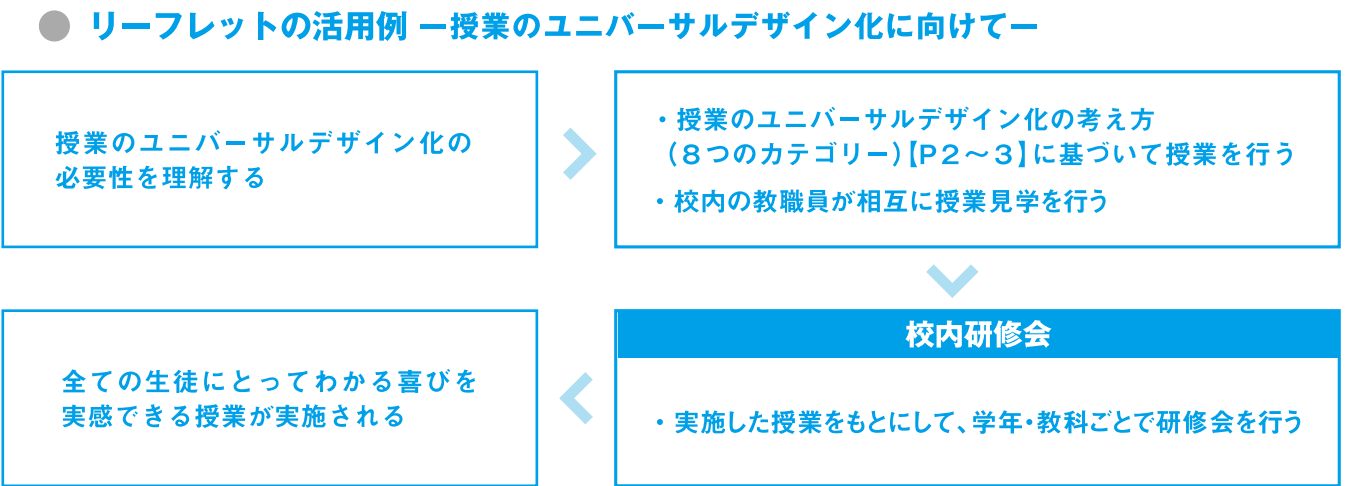
高校教員3年次研修（第1回）

授業のユニバーサルデザイン化に関するアンケート（一部抜粋）

令和5年7月10日、研修前後に実施したアンケート結果を示しました。（回答人数 138 人）



- **受講者の声**（授業にユニバーサルデザイン化の視点を意識することが重要）
- (1) ユニバーサルデザイン化を、今まで意識して行っていなかったが、自分自身が授業をわかりやすく進めている部分がユニバーサルデザイン化の視点だということ意識できた。
 - (2) 特定の生徒ではなくすべての生徒にわかりやすい授業を実施するために、各単元で授業のユニバーサルデザイン化が必要である。
 - (3) 特別な支援を必要とする生徒が年々増えてきている影響もあり、授業のユニバーサルデザイン化の必要性を改めて実感しました。
 - (4) ユニバーサルデザイン化を意識した授業づくりを行うことで、生徒全員が安心して授業を受けることができると思いました。1つ1つの指示をとっても、曖昧な言い回しを避けるなどの意識を常に持ちたいと思います。



通常の学級に 2.2%在籍

特別支援教育の視点

令和4年12月に文部科学省より発表された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」では、公立の全日制又は定時制に在籍する高等学校の生徒を新たに対象として追加し、学習面や行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合は2.2%であることが示されました。通級による指導の拡大をはじめとし、高等学校における特別支援教育の充実がますます求められています。

特別支援教育の充実を図っていくためにはどうすればよいでしょうか。まずは、普段の授業における取組を省察し、特別支援教育の視点から捉え直すことであると考えます。何気なく取り組んでいた工夫が、特別な教育的支援を必要とする生徒にとってのわかりやすい授業につながっていることが多くあります。本リーフレットの8つのカテゴリー等を参考に、特別支援教育の視点を意識していただきたいと思います。そして、それらのよい実践（good practice）を校内で共有することで、個人の専門性向上だけでなく、学校組織の財産になると考えられます。

（東京学芸大学 総合教育科学系 特別支援科学講座 講師／内海 友加利）

協力校 兵庫県立宝塚西高等学校／兵庫県立三田西陵高等学校／兵庫県立西脇北高等学校／兵庫県立但馬農業高等学校

お問い合わせ 兵庫県立総合教育センター 高校教育研修課 〒673-1421 兵庫県加東市山国 2006-107 TEL (0795)42-3103



高等学校における授業の ユニバーサルデザイン化

ウェルビーイングな学習環境づくり

障害の有無にかかわらず、すべての子どもが「わかる・できる」ように
工夫・配慮された通常の学級における授業

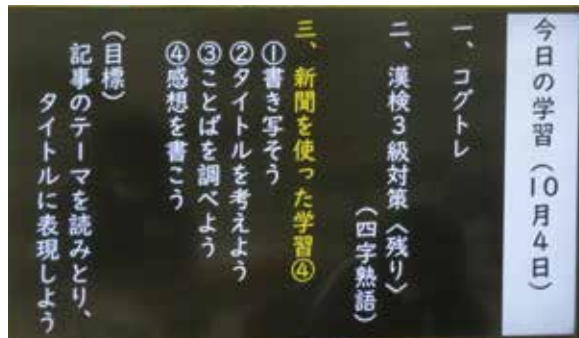
授業のユニバーサルデザイン化の考え方に基づく、工夫と配慮（8つのカテゴリー）

「特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック」兵庫県教育委員会（平成 28 年）を参照

授業のユニバーサルデザイン化に向けて、自身の授業をチェックしてみましょう

01 導入・展開

（例）授業のはじめに学習の流れを示すことで、見通しを持って授業に取り組める



☐ 課題の明確化

分かりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決の手がかりを持たせているか

☐ 教材提示

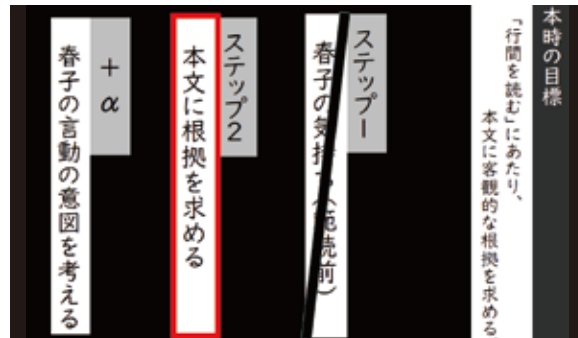
発達段階や教科の特性を踏まえた教材・教具の工夫をしているか

☐ 見通しのもたせ方

授業のはじめに、学習の流れを提示し、見通しを持って取り組めるようにしているか

02 指示・発問

（例）注目してほしい部分を赤で囲み、説明済みの部分は見え消しにすることで、指示がわかりやすくなる



☐ 具体的な言葉

あいまいな言葉を使わず、具体的な言葉で指示するようにしているか

☐ 明確な指示

簡潔で分かりやすく、ゆっくり、はっきりした短い言葉で指示をしているか

☐ 働きかけ

積極的な気持ちをもたせるため、肯定的な言葉で行動を促しているか

05 学習展開

（例）タブレット端末でお互いの動きを録画し、模範の動きと比較することで、技術向上につながる



☐ 時間配分

タイマーの合図等で活動開始・終了し、次の活動へ気持ちを切り替えさせているか

☐ 個人の活動

教科書、タブレット等を使い、調べて解答する習慣を身に付けさせているか

☐ ペアワーク

二人で意見を出し合い、お互いの考え方に気付かせるようにしているか

06 教室・学習環境

（例）黒板周辺に掲示物をなくすことで、注意が散漫にならずに、授業に集中できる



☐ 整理整頓

教室内のものについては、1つ1つ置く位置が決まっているか

☐ 学習のルール

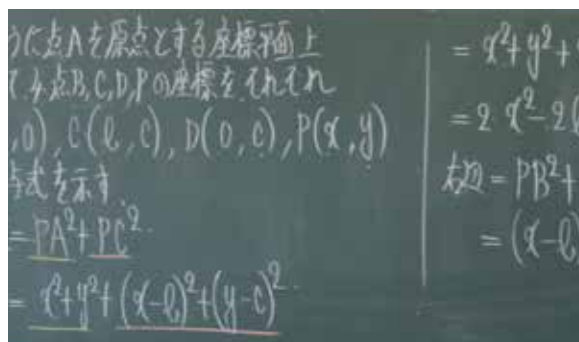
暗黙のルールを作らないように、授業中の決まりなどをはっきり示しているか

☐ 刺激量の調整

教室内の掲示物を調整することによって、学習に集中しやすい環境を整えているか

03 板書

（例）黒板に縦線を引くことで、説明の流れが見やすくなる



☐ 見やすさ

線・枠囲み・矢印・記号等を用いて、大切な箇所がわかるようにしているか

☐ 流れ

作業手順や解答までの流れがわかるよう、板書の構成を工夫しているか

☐ 文字の大きさ・色

チョークの色や文字の大きさなど、生徒の「わかりやすさ」という視点にたっているか

04 机間指導

（例）生徒と同じ目線で声かけすることで、生徒が話しやすい雰囲気になる



☐ 声かけ

学習に困難さを示している場合、具体的な言葉で活動を促しているか

☐ 動き方

支援が必要な生徒を中心に机間指導し、生徒が教員に支援を求めやすくしているか

☐ 理解状況の把握

個別の声かけを行って、生徒の理解状況を把握しているか

07 視覚支援

（例）自作の立体模型を用いて説明することで、抽象的な内容の理解につながる



☐ 掲示物の工夫

文字のみ、言葉のみの指示で伝えるのではなく、視覚的な配慮（写真・絵等）を併用しているか

☐ 具体物の活用

具体物（実物や見本等）を用いて、視覚で感じさせる工夫を取り入れているか

☐ ICTの活用

書画カメラ等を用い後列の生徒にも授業の内容が見やすいようにしているか

08 個別の配慮

（例）Web教材を活用することで、生徒一人一人が自分の進度に合わせて学習できるようになる



☐ 補助教材の工夫

教材・教具の使い方を、手順化したり視覚化したりして示しているか

☐ 教材の活用

予想される困りやつまずきに対応するために、数パターンの教材・教具を準備しているか

☐ 個に対する支援

個に応じた学びを保障するために、具体的な手立てを準備しているか